

# 小塩辻ツノバタケ遺跡発掘調査報告

県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業  
(加賀北部第2地区) 関係埋蔵文化財調査報告

1979. 3

石川県教育委員会

## 凡 例

1 本書は昭和53年度に石川県教育委員会が実施した、県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（加賀北部第2地区）に係る加賀市小塩辻ツノバタケ遺跡（小塩辻B遺跡改称）の緊急発掘調査報告である。調査費用は県耕地建設課が負担した。

2 発掘調査は昭和52年3月23日に実施した分布調査結果を受け、昭和53年4月21日～5月30日に実施した。

3 分布調査は平田天秋・高一男・木越隆三（以上県文化財保護課主事）が担当し、発掘調査は田島明人・平田天秋（以上県文化財保護課主事）が担当した。

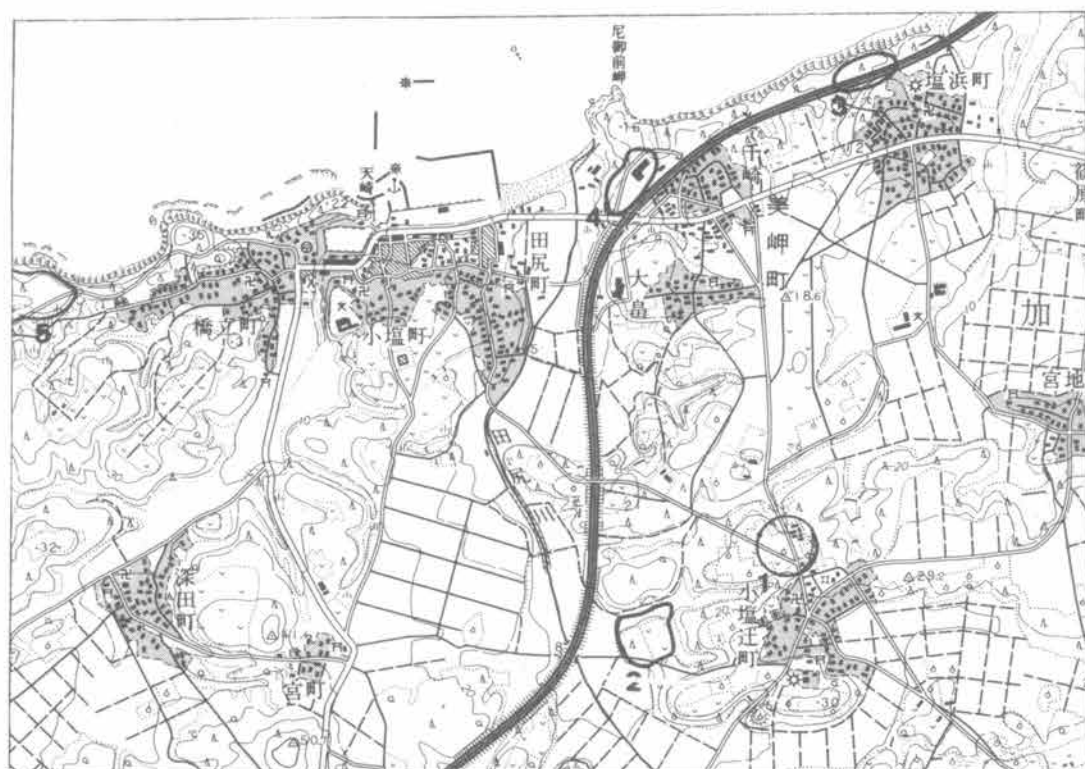
4 本書は田島・平田協議の上、田島が編集・執筆した。また、遺構実測図のトレースは小島裕子氏の援助を受けた。

# 1 位 置

小塩辻ツノバタケ遺跡(小塩辻B遺跡改称 県遺跡地図 No 182)は、加賀市小塩辻町通称ツノバタケに所在する。

本遺跡の立地する橋立台地は、標高40~50m内外の海成段丘で、幾条もの小河川によって形成された羊歯状の小谷平野と、取り残された台地とが交錯した複雑な地形を呈している。本遺跡はその内の1つ。田尻川北縁部の小塩辻集落が占地する台地の、北辺部に在るが、遺跡のあるあたりは小さな谷によりさらに分割されており、その規模は東西約400m、南北約300m、標高約30mを測る。

遺跡はこの台地全面に拡がるものと推定されたが、表面観察の結果では遺物散布が少なく、充分検討できなかつた。また、今回の調査地点は台地ほぼ中央部の最高所に当る。



第1図 遺 跡 位 置 図 (実大)

- |                       |           |
|-----------------------|-----------|
| 1 小塩辻A遺跡              | 4 美岬・千崎遺跡 |
| 2 小塩辻荒神遺跡 (小塩辻タンジリ遺跡) | 5 大野山遺跡   |
| 3 塩浜海岸A遺跡             |           |

周辺の遺跡については、分布調査がゆきとどいておらず希薄であり、実態の判明しているものも少<sup>(1)</sup>ない。第1図では古墳時代前期の遺物を出土している遺跡のみ掲載しておいた。

## 2 遺 構

### 1) 層 位

本遺跡の標準的な層位は、上位より 20cm 内外の水田耕土。5 cm 程度の淡褐色砂質土層（水田床土）。10cm 前後の黒褐色砂質土層（遺物包含層）からなる。

ただ当遺跡の場合は、水田造成により旧地形がかなり削平されたとみられ、調査区中やや低位に在る第1調査区北隅及び第2調査区西隅のごく一部を除き、調査区の大部分では耕土直下で地山となり、遺物包含層はほとんど認められなかった。したがって遺構の遺存状況もきわめて悪い状態であった。

### 2) 遺 構

柵 1 基、土壇 2 基、柱列 1 基、柱穴群 2 ケ所及び近代の桑畑の床跡を確認した。

床跡を除く他の遺構は塚崎第 2・3 形式<sup>(2)</sup>段階の古墳時代前期の所産と推定されたが、出土資料が乏しく、また細片のため詳細な時期関係は明らかでない。以下、遺構の概要を紹介しておく。

#### 柵

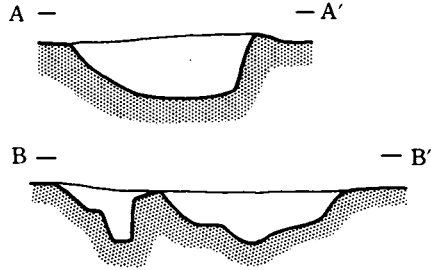
第1調査区で確認。やや東に向って彎曲しながら、ほぼ東西に伸る。軸線上に並ぶ柱穴 9 本と、その柱穴間に在って、軸線に対して直行して対をなすもの 12 本 6 対を確認した。前者の柱穴間寸法は 1.0 m～1.90 m と不揃いであるが、柱穴は径 25cm 前後、深さ 30cm 程度のおおむね均一な様相を持つものからなる。後者はおおむね妥当と判断できたもの 6 対を抽出したが、その他にも可能性の高い柱穴がいくつか認められた。ただこの柱穴は軸線上に並ぶ柱穴とほぼ直行すること及び対をなす両柱穴と軸線までの寸法がほぼ等しいこと以外には規則性を見い出せなかった。柱穴はやや小さく、径 20cm 前後、深さ 20cm 程度のもが多い。柱穴覆土中より土師器細片若干が出土している。

#### 柱穴列

第1調査で北隅で「L」字状に並ぶ性格不明の柱穴 8 本を確認した。その内南より第 1・5 番目の柱穴及び、西に在る 2 本の柱穴は茶褐色土を覆土としており、残りは黒褐色土を覆土としていた。2 時期に細分できよう。柱穴は径 20cm 前後、深さ 20cm 程度のもが多い。出土遺物なし。

#### 01 土壇

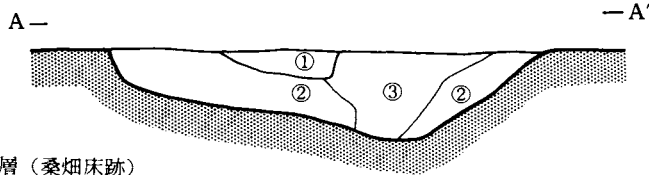
第1調査区北隅で確認。東西 1.0 m、南北 0.90 m、深さ 0.35cm を測る略円形の不定形な土壇。壇底はおおむね平坦で、中央に深さ 0.10cm 内外の溝状のくぼみが認められた。覆土は茶褐色砂質土層で、土師器細片若干が出土した。



第2図 01 土坑断面図

## 02 土坑

第1調査区南辺で確認。西側壁部分は攪乱により明らかにできなかったが、南北1.10 m、東西0.70 m、深さ0.25cmの小判形の土坑であったと推定される。覆土には木炭の他、焼土を若干含んでいた。土師器細片出土。



- ① 淡褐色砂質土層（桑畑床跡）
- ② 茶褐色砂層（木炭含、焼土微量含、土師器若干含）
- ③ 暗褐色砂層（木炭・土師器含）

第3図 02 土坑断面図

## 柱穴群

第1調査区全域及び第2調査区中央で柱穴がやや集中した個所が認められた。これら柱穴からはかなりの頻度で土師器細片が出土し、覆土も他の遺構覆土と類似していることから、他の遺構と平行する時期の遺構と判断されたが、性格は明らかにできなかった。

## 桑畑床跡

調査区全域で、ほぼ東西方向に走る桑畑の床跡を確認した。幅は0.40 m前後、深さはもっとも深いもので0.30 m、床列の間隔は2.30 m程度を測る。

なお、時期は地元民によれば第二次世界大戦前後のものとのことである。覆土より近代の磁器・ガラス破片等が出土している。

## 3 遺 物

柵柱穴、01・02土坑、柱穴群より若干の土師器細片が出土した。

細片であるため特別に紹介することは省略したが、これらは塚崎第II・III形式平行期のものと判断された。

## 4 小 結

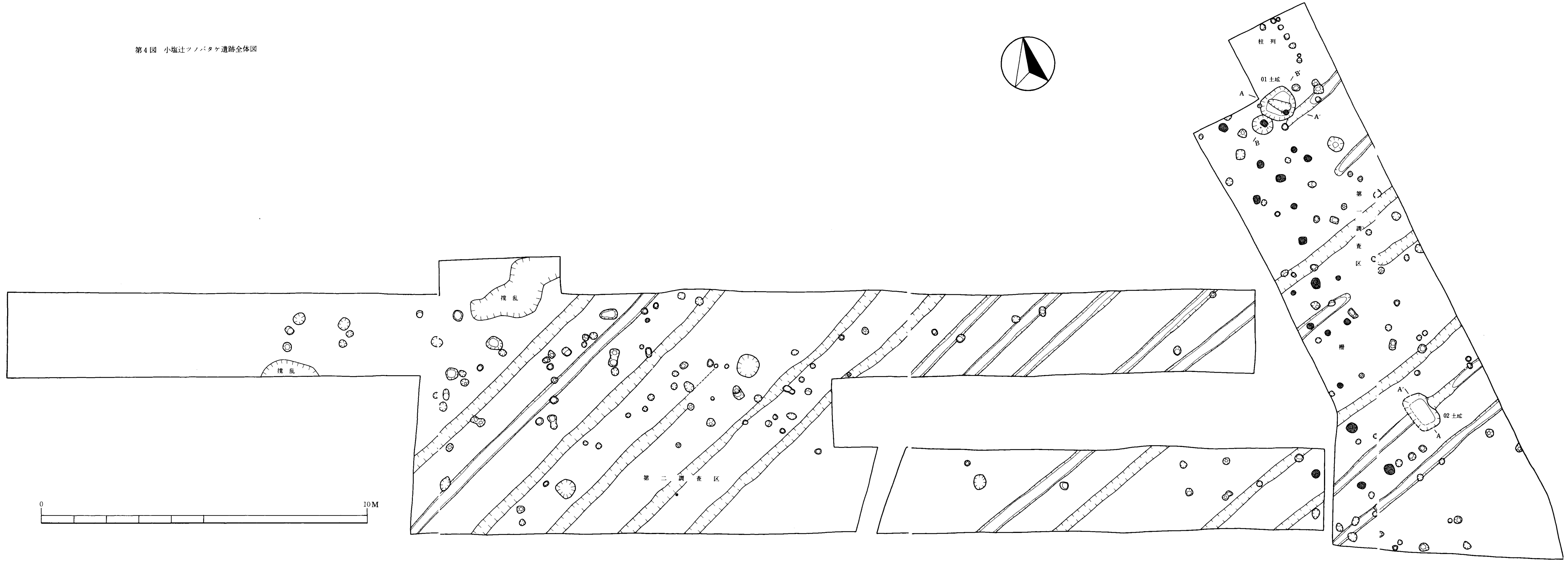
本遺跡は台地上に占地した古墳時代前期の集落址と推定されるものであったが、前述のとおり遺構の保存状態が悪く、性格付けのある程度明らかな遺構としては、柵1基、土壇2基を確認したのみであった。また、遺物の散布・出土も少なく、遺跡の範囲も十分に検討できなかった。

今回の調査成果をもとに当遺跡を大胆に復元すれば、第2調査区の柱穴群を住居跡に見立て、第1調査区で検出した柵が住居跡をとりまくようにめぐり、その外側に土壇が在る集落景観を想定することも可能であろう。この点は今後の調査に総てをゆだねねばならない全くの憶測であるが、一面として、当遺跡が住居跡、土壇、柵等の諸設備を備えた完結した集落であったことは見落してはならないと思う。

当該地域の考古学的調査はかならずしも進んでいるとはいえない。今後とも分布調査等を実施しながら、周辺地域と関連づけ、当遺跡を正確に評価できるよう勤めていきたい。

- 註1 関連遺跡として調査されたものに美岬・千崎遺跡がある。石川県教育委員会「加賀市千崎・大島遺跡」1972  
2 吉岡康暢 小島芳孝他『北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』1976

第4図 小塩辻ツノバタケ遺跡全体図





遺跡地周辺の航空写真



調査区全景（東方向より）





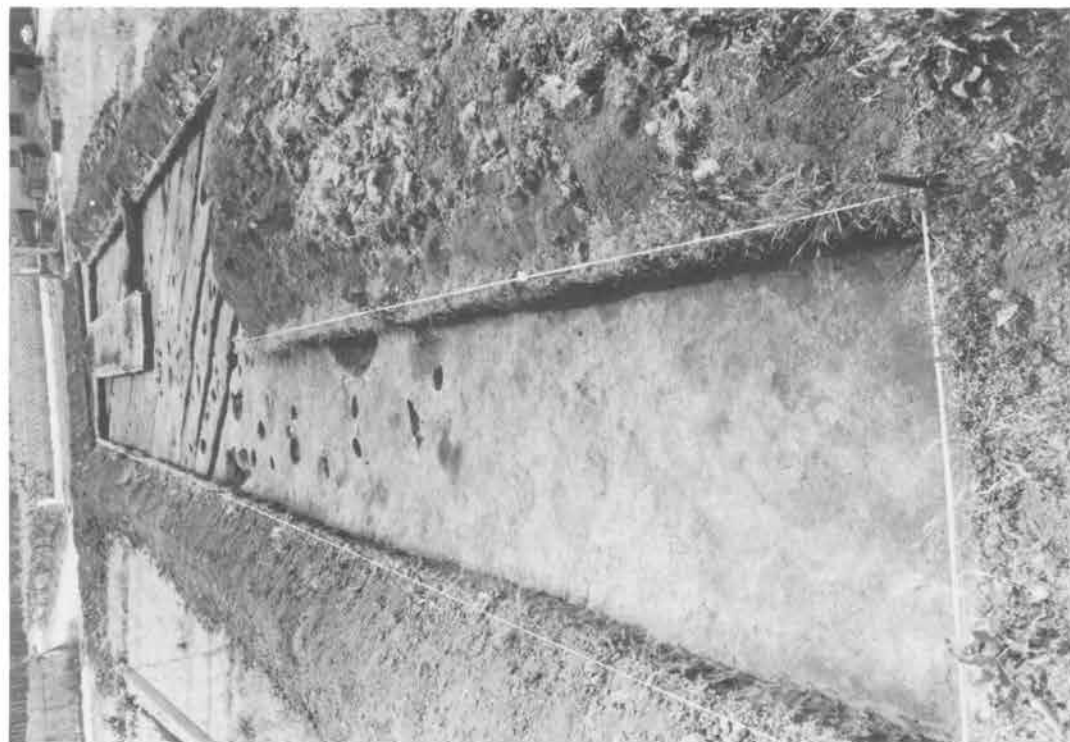
第 I 調査区全景 (南方向より)



01 土塚全景



ピット列全景



第Ⅱ調査区全景(西方向より)



第Ⅱ調査区近景(西方向より)

加賀市小塩辻ツノバタケ遺跡発掘調査報告

昭和54年3月31日

発行者 石川県教育委員会

金沢市広坂2-1-1

印刷所 (株) 橋本確文堂

金沢市大手町2番35号